

若手森林官による森林環境教育について

(実施体験を基礎とした実用的マニュアル)



(抜粋・調製)

小学校低学年を対象とした森林環境教育の提供事例
国有林内の歩道を散策しながらの樹木観察

学社融合の一環として、地域の小学校3、4年生の理科の授業を受け持ち、国有林内の歩道を散策しながらの樹木観察を行いました。この経験を、「小学校低学年を対象とした森林環境教育の提供事例」として報告します。

【実施に当たっての学校サイドの要望】

時期：初夏の森林（6月下旬・午前中）

対象：古丹別こたんべつ小学校 3年生 11人
4年生 18人 合計 29人

科目：理科（野外活動）

交通：スクールバス使用可

【実施に当たっての基本的な考え方】

理科の授業であることと森林管理署が担当するということから、樹木の観察をさせることが適当と考えました。さらに、対象が小学校3、4年生でありまだ幼いことから、針葉樹と広葉樹の違いなどの樹木に関する知識を植え付けるのではなく、子供たちの感性に訴えかけるような手法が効果的であると考えました。

このため、事前にしっかりプログラムを組み立て、森林官等の森林管理署スタッフの主導で、樹木観察を行いたいと考えました。

普段、子供たちは、教室の中で鉛筆を片手に、ノート・教科書を使って勉強しています。通常の授業とは異なり、鉛筆・ノート・教科書を全く使わず、森林の中で樹木観察を行えば、きっと子供たちの印象に残る授業になると考えました。

学校サイドの要望と上記の考え方を踏まえ、具体的には、次のようなプログラムを作成しました。

また、子供たちの安全確保と体力の面に配慮し、最も相応しいと考えられる森林（苫前町古丹別市街地から約10分：苫前町東川地区国有林）を選定しました。

【プログラムの内容】

テ - マ : 初夏の山を歩きながらの樹木観察

概要 : まず、子供たちに、古丹別に生育している代表的な樹木（トドマツ、ミズナラ、イタヤカエデ）の枝葉を手渡し。樹木の名前と特徴を教え、子供たちにそれらの枝葉を十分観察してもらう。
その後、枝葉を片手に持って国有林内の歩道を歩き、手に持っている枝葉と実際に山に生えている樹木を見比べさせる。山を歩きながら手に持っている枝葉と同じ枝葉を持つ樹木を探させ、徐々に樹木の特徴を覚えさせる。
山から戻り、覚えた樹木と見た目が似ている樹木を見比べさせ、どちらが自分たちが覚えた樹木であるのかを当てさせる樹木観察の卒業試験を行う。

タイムスケジュール :

- 9 : 0 0 スク - ルバス 古丹別小学校を出発
9 : 1 0 スタッフ紹介後、トドマツ、ミズナラ、イタヤカエデの枝葉を手渡し、樹木の名前と見分け方を説明。八子等注意事項説明。

説明要旨 : 今日は皆さんに古丹別の山に生えている代表的な木を覚えてもらいます。木を覚えることは理科の勉強ですが、いつも皆さんが教室で勉強しているときのように、鉛筆やノートは使いません。木の葉っぱ、枝、幹を、見たり、触ったり、匂いを嗅いだりして覚えてみましょう。
...「イタヤカエデ」の特徴ですが、この葉っぱ何かの形に似ていますね？
(昔の人はカエデのことを「蛙手(カエルデ)」と呼んでいました。「カエルデ」が変化してカエデになったと言われています)
この木の見分け方は、付け根から必ず2つずつ葉っぱがついていることがあります。

9 : 3 0 歩道散策

散策内容 :

- ・ 5 ~ 6名のグル - プで歩道を歩かせる。
- ・ 各グル - プに森林管理署スタッフ1名が張り付く。
- ・ 子供たちの目を木に向かせる。
- ・ 葉が比較できるぐらいの樹高が低いトドマツ、ミズナラ、イタヤカエデの前で立ち止まり、手に持っている枝葉と見比べさせる。

1 1 : 4 0 卒業試験

1 2 : 0 0 スク - ルバス 古丹別小学校に到着

(樹木観察の風景)



子供たちに、トドマツ、ミズナラ、イタヤカエデの枝葉を手渡し、名前と特徴を教え、それらの枝葉をじっくり観察させているところ。



手に持っている枝葉と同じ枝葉を持つ樹木を探しながら、歩道を歩いているところ。



ゆっくりと2キロほど歩き、沼のほとりで休憩しているところ。子供たちの手にはしっかりとトドマツ、ミズナラ、イタヤカエデの枝葉が握られている。



樹木観察の卒業試験を行っているところ。イタヤカエデとセンノキを見比べさせて、どちらが自分たちが覚えたイタヤカエデであるかを当てさせている。